

台湾新幹線プロジェクト



2006 年度グッドデザイン金賞受賞の台湾高速鐵路 700T 型列車

1990 年代初頭から本格的に動き出したプロジェクトで、日本と欧州連合の争いとなり、1997 年に欧州技術を担いだ台湾新幹線股份有限公司が事業権入札に勝ち、一時は日本の敗北濃厚となっていたが、ドイツの ICE の事故、台湾中部での大地震によって日本の新幹線の安全性が見直され、2000 年に逆転で日本連合（川崎重工、三菱重工、東芝、および三井物産等 4 社連合）が機電システム契約を受注、初の新幹線技術の輸出案件となった。

川崎重工は、360 両の車両供給責任を負い、日本車輛、日立製作所とともに車両の設計・製造、JR の支援を受けて運転・保守計画等の業務を担当した。

台湾新幹線（正式には台湾高速鐵路）は 2007 年 1 月に正式開業し、現在では平均 10 万人/日という輸送量で、文字通り台湾の大動脈になっている。



【川崎重工業株式会社 車両カンパニー 会社概要】

神戸市兵庫区和田山通 2-1-18

1906 年川崎造船所兵庫分工場として設立される。以来、国内外に機関車、新幹線車両、客電車、貨車、新交通システム等数多くの車両を納入。日本で唯一、すべての新幹線車両の生産にかかわっている。

米国には 2 箇所の工場を持ち、数多くの車両を現地生産している。中でもニューヨーク市地下鉄においては No.1 のシェアを誇り、川崎重工の設計によって他社が生産した車両も合わせると、今世紀に納入した地下鉄車両の実に 7 割以上が川崎重工設計による車両となっている。

アジアにおいても、台湾新幹線用車両の納入や中国の高速鉄道への技術供与、シンガポール、台北地下鉄等多くの車両を納入し、文字通り日本を代表する車両メーカーとなっている。